

平成30年度 公立はこだて未来大学 入学者選抜概要

1 募集人員

| 学 部 名 | 一般選抜入試 | | AO入試 | 特別選抜(推薦)入試 | | | 入学定員 |
|-----------|--------|------|------|------------|-----|-----|------|
| | 前期日程 | 後期日程 | | 指定校 | 地域枠 | 全国枠 | |
| システム情報科学部 | 135人 | 25人 | 20人 | 10人 | 45人 | 5人 | 240人 |

※システム情報科学部の定員は、情報アーキテクチャ学科120人、複雑系知能学科120人ですが、学部一括で入学者を選抜し、2年進級時に各学科へ配属します。

2 試験期日

◆AO（アドミッションズ・オフィス）入試 [9～12頁参照]

出願期間 平成29年 9月20日（水）～平成29年 9月29日（金）
 第一次選考合格発表 平成29年10月20日（金）※選考があった場合
 第二次選考 平成29年11月 4日（土）・5日（日）
 合格発表 平成29年11月10日（金）

◆特別選抜（推薦）入試 [13～15頁参照]

出願期間 平成29年11月 8日（水）～平成29年11月17日（金）
 試験期日 平成29年12月 2日（土）・3日（日）
 合格発表 平成29年12月 8日（金）

◆一般選抜入試 [5～8頁参照]

出願期間 平成30年 1月22日（月）～平成30年 1月31日（水）

(1) 前期日程入試

試験期日 平成30年 2月25日（日）
 合格発表 平成30年 3月 8日（木）

(2) 後期日程入試（個別学力検査は課さない）

合格発表 平成30年 3月20日（火）

6 一般選抜入試の教科・科目・配点

(1) 一般選抜入試の教科・科目

| 大学入試センター試験 [4教科5科目または6科目] (前期・後期共通) | | | | 個別学力検査 | | | | |
|---|------------------------------|-----------------------|--------------------------------------|--------|------|------------|-----------------------|-----------------------|
| 前期日程 ・ 後期日程 | 教科 | 科目 | | 前期日程 | 教科 | 科目 | | |
| | 国語 | 『国語』 (「近代以降の文章」のみ) | | | 前期日程 | 数学 (注2) | 必須問題 | 数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B |
| 数学 | 必須 | 『数学Ⅰ・数学A』 | | 選択問題 | | | 数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B | |
| | 選択 | 『数学Ⅱ・数学B』 | | | | | 数学Ⅲ | |
| 理科 | | 選択 (注1) | 「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」 | | 後期日程 | 外国語 | 英語(注3) | |
| | 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」 | | 個別学力検査は課さない | | | | | |
| 外国語 | 『英語』 (リスニングも課す。) | | | | | | | |

(注1) 「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」および「地学基礎」から2科目を選択し, または「物理」, 「化学」, 「生物」, および「地学」から1科目を選択します。

(2科目以上受験した場合は, 高得点の科目の成績を使用します。)

(注2) ① 数学Bは「確率分布と統計的な推測」を除きます。

② 数学出題ポリシー [16頁参照]

(注3) ① 英語出題ポリシー [18頁参照]

② 英語辞書の持込み可

本学の考える辞書の活用意義とは, 文章の要になるような単語・熟語の適切な意味や用例をその場で調べるということです。そうした辞書の活用は, 本学の英語教育(コミュニケーション)において実践的な英語力の一つと考えます。したがって, 試験での辞書の持込みを認めます。

辞書の種類は, 書籍型の英和, 和英および英英とし, 持込める冊数は各1冊です。電子辞書の使用は認めません。

付箋等はあらかじめはずしておいてください。また, 辞書の余白部分に文章や文例等の書込みを用意し解答に使用するなど, 本学の考える辞書の活用意義から逸脱すると判断される行為は, 不正行為とみなす場合があります。

(2) 配点

| | 大学入試センター試験 | | | | | | 個別学力検査 | | | 合計 |
|------|------------|------------------|--------------------------------------|-----|-------------------|-----|--------|-------------|-----|-----|
| | 国語 | 数学① 〔数学I・数学A〕 | 数学② 〔数学II・数学B〕 または 〔情報関係基礎〕 | 理科 | 外国語 〔英語〕 ※1 | 小計 | 数学 | 外国語 〔英語〕 | 小計 | |
| 前期日程 | 60 | 60 | 60 | 60 | 60 | 300 | 300 | 200 | 500 | 800 |
| 後期日程 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 500 | — | — | — | 500 |

※1 筆記とリスニングの合計点（250点満点）を，前期日程については60点満点，後期日程については100点に換算します。

一般選抜入試（前期日程）における 数学出題ポリシーについて（抜粋）

平成24年4月

平成27年4月一部修正

公立はこだて未来大学入学試験委員会

一般選抜入試（前期日程）において、数学の出題は以下のとおりの出題形式となっております。

必須問題：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学A，数学B

選択問題：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学A，数学B，数学Ⅲ

「必須問題」の出題範囲は、従来どおり「数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学A，数学B」のままです。「選択問題」は、「数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学A，数学B」または「数学Ⅲ」のいずれかの選択となります。「数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学A，数学B」が必須問題，選択問題の双方で出題されることで戸惑われることがないように、本学の出題方針を以下のとおり公開いたします。

1. 「数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学A，数学B」（必須および選択）の出題ポリシー

平成18年より公開しておりますポリシーにおいては、選択問題（「数学Ⅱ・数学B」）について、主として複数の事項を活用し、総合的な学力を確認することを狙いとしてきました。おかげさまで、平成21年度以降の一般選抜入試（前期日程）の数学におきましては、本学の企図する選抜へのプラス効果が出ていると考えております。

さて、「数学Ⅱ・数学B」の出題におきましては、「数学Ⅰ・数学A」の内容を前提とすることが自然な考え方です。しかしながら、従来の「数学Ⅱ・数学B」という出題範囲の設定の下で「数学Ⅰ・数学A」の内容を設問内容とすることは、大学入試に関する一般慣習上困難とされています（※）。本学が志向してまいりました総合的な数学力の確認をさらに実質化するためには、従来の選択問題（「数学Ⅱ・数学B」）において、「数学Ⅱ・数学B」の前段階である「数学Ⅰ・数学A」も出題範囲に含めて（※）、総合的な出題を行うことが効果的です。

（※）平成21年度以降の選択問題（「数学Ⅱ・数学B」）においては、「数学Ⅰ・数学A」の項目は主たる設問事項としておりませんでした。

したがって、平成25年度一般選抜入試（前期日程）からは、これまでの公開ポリシーの継承・発展形として、

- ① 必須問題（「数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学A，数学B」）では、主として基礎事項に関する学力を確認するための基本的な問題を3問程度出題します。
- ② 選択問題（「数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学A，数学B」）では、主として複数の事項を活用し、総合的な学力を問う問題を2問程度出題します。「数学Ⅰ・数学A」の内容を設

問事項とする出題も可能となります。

2. 「数学Ⅲ」(選択)ポリシー

必須問題(「数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B」)と同様, 主として基礎事項に関する学力を確認するための基本的な問題を2問程度出題します。

3. 出題ポリシーに期待する効果

公立はこだて未来大学では, 本学の教育・研究活動での特徴的な学際性を勘案し, 本学の受験を考える受験生の中で, 「数学Ⅲ」を履修していない方の入学意欲を妨げない配慮から, 平成21年度入試から引続き, 前期試験における数学(必須)の出題範囲を「数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B」に限定し, 「数学Ⅲ」は選択問題での出題範囲としております。

本学での初年度基礎数学科目には「数学Ⅲ」を前提とする内容が含まれますが, 高校で「数学Ⅲ」を学んでいなかった学生もそれをクリアしてきました。この場合, 「数学Ⅲ」の既習者より, 「問題へ取り組み, 解決する」姿勢が一層必要であろうと思います。

本学の一般選抜入試(前期日程)において「数学Ⅲ」を選択する受験生については, 「数学Ⅲ」を選択しない皆さんよりも初年度基礎数学科目への接続が容易であろうという判断から, 入試においては「数学Ⅲ」の基礎事項について学力確認をすることとしました。

選択問題の「数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B」を解答される場合において, 「数学Ⅰ・数学A」の学習負担の増大や, 難易度の上昇が新たに発生するとは考えておりません。従来におきましても, 解答過程において「数学Ⅰ・数学A」の内容は不可欠であったからです。

実際,

- ・出題項目の偏りが緩和される

- ・必須, 選択ともに段階を踏んだ設問により, 理解力の細やかな評価が可能になる

など, 受験される皆さんへのプラス効果があると考えます。また, 細やかな出題による学力確認を入学後の初年度基礎数学教育にも活用したいと考えています。トータルな設問レベルは従来と同程度のレベルとします。

以上

英語出題ポリシー

平成26年12月
公立ほこだて未来大学入学試験委員会

英語の出題においては、高等学校学習指導要領等を踏まえつつ、以下のポリシーで出題しています。

公立ほこだて未来大学の英語の入学試験は、出題する文章と問題に独自の焦点を持たせています。主に、科学、デザインおよび技術に関する場面の中で、情報や考えを理解したり伝えたりする能力を下記のとおり評価することを目的としています。

また、試験において、辞書の使用を認めています。文章の要になるような単語の意味がわからないときに、単語の適切な意味をその場で見出すという辞書の活用は、本学の英語教育において実践的な英語力の一つと考えるためです。

記

A. 読解力

- ・ 文章の要点や概要を理解する。
- ・ 質問の要点を明確にし、与えられた文章の文脈と照らし合わせて適切な答えを選ぶ。
- ・ 文章の中から特定の情報を見つける。
- ・ 論点を明確にする中で、その論点と文章の構成や図表などの関係に着目する。

B. 文書構成力・表現力

- ・ 自分が聞いたり、読んだり、学んだり、経験したりしたことに基づいた情報や考え方について、一貫したまとまりのある文章を書き伝える。
- ・ 与えられた文章に示された情報に基づき、理論的で明快な文章を書く。
- ・ 論点を明確にする中で、その論点と文章の構成や図表などの関係に着目する。